

認定 NPO 法人西神戸トラウマカウンセリングルーム

平成28年度の活動報告

平成29年6月17日

認定 NPO 法人西神戸トラウマカウンセリングルーム

I 平成28年度の活動内容

事業年度：平成28年4月1日～平成29年3月31日

総会開催：平成28年5月28日

定例理事開催：8回開催（NPO事務所、きっずTREE）

自主事業

- A 個別カウンセリング事業
- B コンサルテーション事業
- C 専門家向け講演会・研修会開催事業
- D 子どもと親へのイベント企画・開催事業
- E 障害児通所支援事業
- F その他、被災地支援事業

受託事業

- G 子育て相談センター事業
(加古川市育児保健課)
- H 認可保育園臨床心理士訪問指導事業
(加古川市保育課)

II 自主事業の活動内容

A 個別カウンセリング事業

- 目的：①過去の心の傷によるPTSD症状に対する心のケアとカウンセリング
 ②子どもの発達や子育てに対するカウンセリング
 ③一般的な悩みに対するカウンセリング
 ④スーパーバイズ

場所：法人事務所併設カウンセリングルーム

内容：①個別カウンセリング実施

②親子並行面接や夫婦カウンセリングも実施

治療技法：PE（長時間暴露療法） SE（ソマティック・エクスペリエンス）

EMDR（眼球運動による脱感作と再処理法） TFT（思考場療法） など

従事者：臨床心理士 大上律子 林由香 保志場香世

●カウンセリング：相談件数 22 件／実人数 大人 5 人 子ども 1 人

	男性	女性	子ども	親	合計
新規	0	1	0	0	1
継続	1	2	1	1	4
合計	1	3	1	1	6

●スーパービジョン：相談件数 13 件／実人数 2 人

	人数
新規	0
継続	2
合計	2

B. コンサルテーション事業

目的：契約幼・保育園を一定期間において継続的に訪問し、乳幼児を預かる保育士や幼稚園教諭を支援する

従事者：臨床心理士1~2名/1回

内容：各園を訪問し、保育場面で直接子どもの行動観察及びコンサルテーションを行う

【平成28年度実績】

訪問園数：2園 訪問回数：のべ3回

従事者：保志場香世

C. 専門家向け講演会・研修会開催事業

目的：講演及び研修会を行い、専門家としての技術向上を図る

1、ビデオでの講演およびスカイプでの質疑応答（通訳あり）

開催日：平成28年5月28日（土）

開催場所：ホテル舞子ピラ

講師：F.ブローイユ博士

『0歳児の心の秘密がわかる本』 『The Wonder Weeks(日本名「不思議な週齢ワンダーウィークス」)』

著者：F.ブローイユ博士

参加人数：19人

2、「てんかんについて学ぶ 事例検討」

開催日：平成28年3月8日

開催場所：きつずTREE

講師：足立 昌夫先生（あだちこども診療所 加古川市）

参加人数：18人

3、施設見学

①NPO法人ワンダートンネル

見学日：平成28年9月2日

個別療育の場合は1回50分、グループ療育の場合は1回1時間20分

- ・児童発達支援事業
- ・放課後等デイサービス
- ・保育所等訪問支援

②障害者支援施設『こころみ学園』（施設入所支援90名・生活介護105名・短期入所10名）

多機能型事業所『あかまつ作業所』（生活介護10名・就労継続支援B型10名）

共同生活援助事業所『あけぼの荘・三井荘・うちこし荘・あさひ荘・たじま荘・もちぶね荘・小松荘』
(7ホーム30名)

相談支援事業所『こころみ』（特定および障害児相談支援事業）

見学日：平成28年9月3日

CoCoファーム&ワイナリー

1950年代、当時中学の特殊学級の教員だった川田昇氏と特殊学級の子ども達を中心になって2年がかりで急斜面の葡萄畑を開墾し、その後、知的障害者更生施設「こころみ学園」をスタートさせました。現在、学園から原材料のブドウや椎茸を仕入れ、ワインなどに加工して販売している。当初は、こころみ学園で酒造免許を取得するつもりであったが、補助金をもらう立場のこころみ学園が酒税を納めることになるのは問題があるという指摘があり、ココ・ファーム・ワイナリーが酒造免許を取得した。

③NPO法人こどもの発達研究室きりん発達支援センター とくしま

見学日：平成28年12月9日

感覚統合療法の考え方を活かした実践ができる設備（スウィング、トランポリン、ボールプールなど）が備えられている。遊びを教材としながら子どもが積極的に活動できるように働きかけ、家族が子どもの療育に参加し、セラピストと交わすコミュニケーションがきりん教室のペアレントトレーニングとなっている。

④プレイジム（株式会社アニマシオン）

見学日：平成28年12月21日

リハビリテーション医学に基づいた「感覚統合療法・作業療法」、認知科学に基づいた「認知・学習機能の発達促進」、生き活きとした時間を楽しむ「アニマシオン活動」を中心とした個別的支援を柱に、子どもたちの「しなやかなカラダ」「柔軟な思考」「知的な好奇心」を育む支援を行う。

D. 子どもと親へのイベント企画・開催事業

目的：親のペアレント・トレーニングと同時並行で、子どものダンス療法を用いてセラピーを行う

内容：ペアレント・トレーニング

開催日：平成28年10月8日(土)、10月30日(日)、11月5日(土)

開催場所：酒心館ホール、東灘区民センター、横屋会館

講師：田中 隆 先生

砂連尾 理（じゃれお・おさむ/ コンテンポラリダンサー）先生

対象者：就学前の年中・年長児を持つ親、発達障害児を持つ親と子

実人数：5世帯（大人6人、子ども4人）

感想：

- ・子どもへの関わり方が分かった。
- ・ペアレントトレーニングの関わり方は、仕事にも役立つと思った。
- ・市外からの参加で遠いので、通いにくい。近い所だったらもっと勉強できるのと思った。

反省点：5回開催予定であったが、3回で終了した。参加者5世帯とも神戸市外からの参加だったため、4、5回目の参加者が0となり、やむなく中止とした。



E. 児童福祉法に基づく通所支援事業 きっずTREE

開所日：平成26年5月2日

所在地：加古川市神野町石守1丁目22-1

事業形態：多機能型通所支援事業所

- ①児童発達支援事業
- ②放課後等デイサービス事業
- ③保育所等訪問支援事業

従事者：施設長兼児童発達支援管理責任者：大上律子

常勤保育士：1名

常勤指導員：1名

非常勤臨床心理士：4名

非常勤保育士：3名

保育補助：2名

●平成28年度の利用者

・実人数と利用のべ件数

児童発達（男児19人・女児5人）（H28年4月時点の年齢で区分）

年齢	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
実人数	1人	8人	9人	10人	4人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
123	119	142	169	178	151	155	165	142	154	156	145

児童発達 実人数 32人
利用延件数 1799件

放課後デイサービス（男児10人・女児1人）・実人数と利用のべ件数

年齢	小1年	小2年	小3年	小4年	中学生	高校生
実人数	3人	2人	4人	3人	2人	1人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
57	65	77	61	46	58	62	80	64	71	76	62

放課後デイ 実人数 15人
利用延件数 779件

保育所等訪問事業

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
8	9	5	14	9	7	7	16	8	1	2	0

訪問事業 実人数 77人
利用延件数 86件

F. その他・被災地支援事業

1. 福島県被災地支援事業

活動場所：PEP KIDS KORIYAMA

医療法人 仁寿会 菊池医院

活動目的：乳幼児とその親及び、支援者をサポートする

活動従事者：当法人所属の臨床心理士2名；大上律子・保志場香世・馬場教子

*1回につき2名ずつローテーションで訪問

活動日数：2日/1回/1ヶ月 のべ12回24日

運営費：NPO法人ペップ子育てネットワーク

活動内容：子育てに悩む親の個別相談

乳幼児とその親に関わる支援者のサポート

- ・病院受診される患者さんの中で、発達の問題、不登校の問題、ゲーム依存による昼夜逆転生活、親子関係の問題を抱えた患者さんが、病院のスタッフに声をかけられ相談につながる。
- ・発達の問題については、発達検査を実施し、助言や専門機関に繋ぐ。
- ・不登校の問題は、郡山市スクールカウンセラー皆川晃先生と一緒に面接し、学校に繋ぎ、生活の安定を図る。
- ・ゲーム依存が強い場合は、専門機関に繋げる。昨年2名入院治療が勧められ、専門医療機関に入院となった。



今後の課題

年々ニーズは高まっているが資金不足のため継続は難しい。

2. 熊本県被災地支援事業

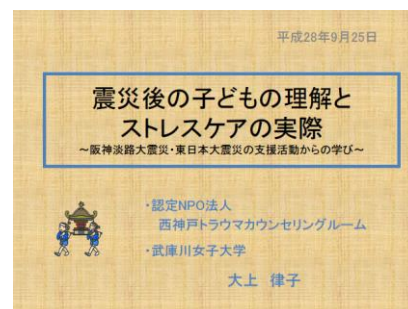
活動場所：益城町 聖母愛児園

活動目的：被災地を応援した人たちのトラウマワーク

活動従事者：大上律子

活動日：平成28年9月25日

活動内容：講演「震災後の子どもの理解とストレスケアの実際」



Ⅲ 受託事業

G. 加古川市子育て相談センター

目的：就学前の乳幼児をもつ保護者からの相談のうち、主に子どもの発達、情緒不安、親の育児ストレス等、精神的な悩みに応じる。

場所：加古川市子育て相談センター

対象者：加古川市在住の就学前の乳幼児をもつ保護者

開所時間：月曜～金曜、9：00～17：15（面接時間 9：30～17：00）

実施方法：臨床心理士による面接相談および電話相談

※個別相談により、子どもの問題が親の育児不安に起因するのか、親の精神状態や環境因子、育児観に起因するのを見立てて、カウンセリング法を行う。子どもには発達検査、遊戯療法を行う。

スタッフ：臨床心理士；1日1名以上（臨床心理士のべ7名/1週間）

事務職員；臨床心理士取得見込み者 1名

その他；学生ボランティア 4～5名

委託料：12,076,560円

●来所相談と電話相談件数及びコンサルテーション件数

	25年度	26年度	27年度	28年度
来所相談	2321件	2101件	2203件	1747件
電話相談	198件	299件	172件	363件
合計	528人/2519件	528人/2400件	511人/2375件	425/2110件
コンサルテーション	378件	499件	506件	261件

●年齢分布

平成28年度	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	合計
実人数(人)	8	70	83	70	55	27	9	4	326

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	
実人数	8	70	84	70	55	27	9	4	326
総計	40	348	469	408	284	154	23	21	1747

大人	Faの年齢	Moの年齢	不明	総計
実人数	2	96	1	99
総計	2	360	1	363

H. 加古川市認可保育園臨床心理士訪問指導事業

認可保育園臨床心理士訪問指導業務

目的：保育園在園児における発達障害児の早期支援を図る。

業務内容と対象園：

- (A) 保育園訪問（臨床心理士による保育園への巡回相談の実施）
加古川市保育課に訪問依頼のあった27園
- (B) 保育士のための研修会・講演会開催
加古川市内の公立・認可保育園保育士

実施方法：

- (A) 相談対象児童についての日常生活での言葉や態度など
相談内容を記載した依頼書を元に、訪問または職員会議内での事例検討を実施した。
- (B) 外部講師による講演会を実施した。

従事者：臨床心理士 3名

委託料：914,760円

(A) 保育園訪問

●相談対象児についての保育士の主訴別人数（人）

	園数	発達	情緒	行動	一般的な育児相談	親自身の問題	合計
訪問	26	112	21	0	0	18	151
職員会議	1	1	0	0	0	0	1
合計	27	113	21	0	0	18	152

●相談対象児の虐待環境の有無別人数

	あり	なし	総計
平成28年度	29(19%)	123(81%)	152(100%)
平成27年度	10(13%)	66(87%)	94(100%)

(B)保育士のための研修会・講演会開催

●「子どもの発達を伸ばすために、知っておきたい睡眠の知識」

日 時：平成29年3月11日

場 所：加古川市人権文化センター

講 師：毛利 育子 先生

(大阪大学大学院 連合小児発達学研究所 准教授)

参加者数：27園 79人



IV 講師派遣・その他

1、講師派遣：加古川市・高砂市・加古郡合同養護教諭研修会

●「生きる力を育む子育て～発達という視点から見た子どもへの関わり」

日 時：平成28年8月10日

場 所：いなみ町ふれあい交流会館

講 師：保志場 香世

参加者数：80人（加古川市・高砂市・加古郡 公立小中学校養護教諭）

2、個別園での事例検討会

●「困った保護者との付き合い方 事例3件」

日 時：平成28年7月29日

場 所：虹保育園（神戸市東灘区）

講 師：大上 律子、保志場 香世

参加者数：15人

参加者の感想：

- ・実際に園内であった事例を出して、その事例に関係している人、担任、園長や主任のみでなく、園の職員全体で考え、発表しそのことについての対応や進め方などを考えて進めていく事ができたのはよかったと思う。先生の言われていたように、共通理解は大切であり、全員で考えていく事が大切だと思うので、このような研修の時間のみではなく、少しでもそのような話し合いをする時間を作っていく事ができたらと感じました。子どもや保護者についての相談、悩みが多いとは思いますが、園の雰囲気良くしていくことのできるよう、職員間のことについても話し合えたらと思います。

